



2008NTTジャパンカップ第10戦村上・笹川流れ大会レース速報 女子は佐藤優香、男子は平松幸紘が優勝

女子エイジ別は三浦、大塚、加瀬、松本、小林、藤田、エクスタイン、宗田が優勝

9月28日(日)、新潟県村上市の瀬波海岸、名勝笹川流れと村上市内の特設コースで、2008NTTトライアスロンジャパンカップ第10戦・2008村上・笹川流れ国際トライアスロン大会が行われた。

前日からの荒天で波が高く、エリートのスィムは1.05kmに短縮されウエットスーツ着用義務となった。また、国際大会は、デュアスロンとなり、第1ランは1kmとされた。

午前9時30分スタートの男子は、2周回のスィムを最初に終えたのがベテランの山本淳一(K's-Y・グリーンタワー・稲毛インター)。続いて小野友行(埼玉県連合)、遠藤樹(東京都連合)、吉越慎吾(愛知県協会)の順。

笹川流れへのバイクでは、この4名に椿浩平(チームブレイブ)、原田雄紀(専修大学)、長谷川裕一(東京ヴェルディ)が加わって7名の第1集団に。しかし終盤、第2集団が追

いついて17名のトップ集団となった。



荒天のなか、スィムの1週回目を終える選手たち

佐藤 優香

トーションパートナーズ・チームケンズ



今年に入って4勝目となったが、オリンピックディスタンスは初優勝。バイクでは、折り返しを過ぎて中島選手に追いついた。ランでは中島選手を追い抜くことになったが、追いつけて、競り合って、優勝できたのがよかった。日本選手権に向かって弾みがついた。

平松 幸紘

日本食研



初めてのジャパンカップ優勝はうれしい。昨年までは、何かとアクシデントがあって、調子は今ひとつだった。今年に入って、練習したことがいい形で今日のレースにつながったと思う。今年前半はスィムを強化し、夏からはランを強化して、気持ちよく走れた。日本選手権に向けていい勝利。

JTU Official Sponsors & Official Partners



ランでは、バイク第2集団から追いついた平松幸紘(日本食研)が序盤からリード。追うのは、下村、山本、細田貴茂(チームブレイブ)、椿、河原勇人(トーションパートナーズ・チームケンズ)。半ばを過ぎたところで、河原、下村が平松に肉薄したが、平松が逃げ切って1時間45分3秒でジャパンカップ初優勝。2位は下村、3位は河原となった。

午前9時35分スタートの女子は、中島千恵(トーションパートナーズ・チームケンズ)がスイムをトップフィニッシュ。土橋茜子(チームケンズ練習生)と佐藤優香(日本橋女学館高校)高橋侑子(東京ヴェルディ)が後を追う。

バイクでは中島が逃げたが、土橋、佐藤、高橋が折り返しを過ぎて追いつき、ランへ。

ランでも中島が先行したが、佐藤が追いつき、終盤にトップに立つと2時間3分33秒でオリンピックディスタンス初優勝を飾った。2位は中島、3位は高橋。

女子エイジ別選手権は、16-19歳・三浦友里恵(山形県協会)、20-24歳・大塚真弓(愛知県連合)、25-29歳・加瀬加奈子(新潟県連合)、30-34歳・松本華奈(鳥根県協会)、35-39歳・小林恵(山形県協会)、40-44歳・藤田智弥(富山県協会)、45-49歳・メアリー・エクスタイン(東京都連合)、55-59歳・宗田恵世子(東京都連合)が優勝した。男子総合優勝は、倉内誠司(愛知県協会)だった。

このレースの様子は、フォトギャラリーでご覧になれます。



日本海をバックにトップを走る中島



佐藤(右)と中島のデッドヒートは白熱した

中島 千恵

トーションパートナーズ・チームケンズ



バイクでは逃げるつもりはなく、チームメイトを待ちたかった。後ろがこないうちに、折り返しになってしまった。順位は2位だったが、自分が粘った結果なので満足。これで、日本選手権でのめどがついた。すずしいほうが得意なので、昨年より1週間遅い日本選手権ではがんばれる。

下村 幸平

JSS深井



春のアジア選手権が終わってから、世界選手権、ユニバーシアードと結果が残せなかった。夏場から身体を作り直して、今回につなげた。バイクの第2集団から追いついて、ランで頑張れば優勝が見えてくると思った。ランは河原選手に引っ張ってもらった形だが、最後まで集中して走ることができた。

JTU Official Sponsors & Official Partners

NTT東日本 NTT西日本

SAMSUNG

Kyorin JAL arena Amino-Value asics TAIHEI resoritrust ext fieria SUBWAY
 日通 Gakken 文化総合研究所 B&G KONAMI SHIMANO JBJA Canadian Crystals